

新図書館等の基本設計(中間報告) 資料

1 整備の概要

- ・建設場所 高知市追手筋2丁目(高知市立追手前小学校敷地東部分)
- ・整備面積 用地7,000㎡程度(多目的広場等2,000㎡程度を含む)
- ・延床面積 19,855㎡(建築基準法上は19,855㎡+駐車・駐輪場1,840㎡(機械式地下駐車場を除く))
- ・高さ 33m程度
- ・階数 5階(建築基準法上は10階)
- ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
- ・駐車場 100台(障害者用3台を含む)
- ・駐輪場 自転車300台、バイク75台

2 フロア構成

〈階〉	〈主な用途〉	〈面積(㎡)〉
RF	屋上出入口	70
5F	こども科学館(仮称)(展示室、実験室、プラネタリウム、収蔵庫、事務室 など)	2,320
M5F	書庫、貴重書庫 など	1,550
4F	ホール(200名程度)、研修室(展示室兼用)、集会室、学習室、書庫、事務室 など	2,980
M4F	書庫	1,580
3F	課題解決支援サービス(健康・安心情報、ビジネス・農業・産業支援)、高知県関係資料コーナー、デジタル資料利用コーナー、書庫 など	3,980
M3F	書庫	1,560
2F	一般図書開架スペース、雑誌閲覧コーナー、児童コーナー、書庫、図書館エントランス、フリーミーティングスペース など	3,760
1F	エントランスロビー、新点字図書館、配送作業スペース、ブックポスト など	2,055

計 19,855㎡
(ほか、1F・B1Fの駐車・駐輪場 計1,840㎡)

3 用途別面積

新図書館		新点字図書館		こども科学館(仮称)		計
開架・閲覧スペース	5,000	利用者スペース	200	展示・実験・学習スペース	1,230	
集会・研修スペース	950	図書制作スペース	170	管理スペース	270	
資料保存スペース	5,880	書庫スペース	370	共用スペース	300	
事務・管理スペース	1,310	管理スペース	120			
共用スペース	3,935	共用スペース	120			
計	17,075	計	980	計	1,800	合計 19,855

※新点字図書館の書庫スペース370㎡のうち240㎡は、2F(新図書館の書庫内)に整備。

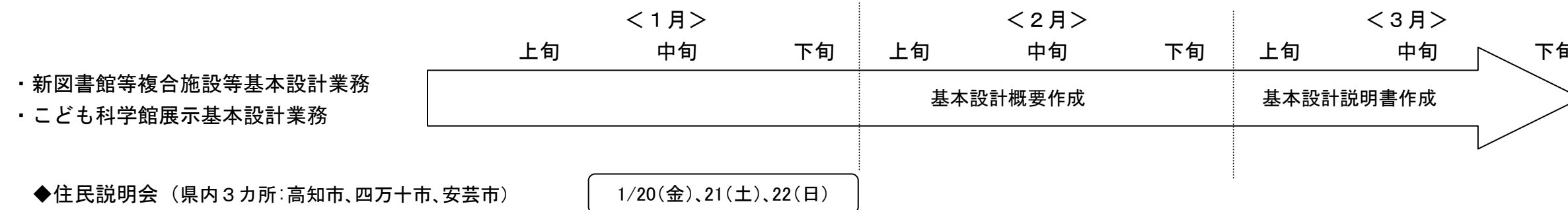
4 経過

9月		10月		11月		12月	
29日	設計業務(建築)委託契約締結	3～4日	9月議会総務委員会(プロポーザル結果報告)	8～9日	設計業務(建築)打合せ(第4回)	6～7日	設計業務(建築)打合せ(第6回)
"	設計業務(展示)委託契約締結	4～5日	設計業務(展示)打合せ(第1回)	9日	設計業務(展示)打合せ(第3回)	7日	設計業務(展示)打合せ(第5回)
30日	設計業務(建築)打合せ(第1回)	12日	設計業務(建築)打合せ(第2回)	21～22日	設計業務(建築)打合せ(第5回)	13日	設計業務(建築)打合せ(第7回)
		21日	設計業務(展示)打合せ(第2回)	25日	設計業務(展示)打合せ(第4回)	14日	設計業務(展示)打合せ(第6回)
		26～27日	設計業務(建築)打合せ(第3回)				
		27日	臨時総務委員会(プロポーザル結果報告)				

5 プロポーザル提案内容からの主な変更点

項目	提案内容	経緯(理由)	基本設計(調整中)
機械式地下駐車場の位置、駐車台数(利用者専用に100台程度を確保)	建物の地下部分に機械式72台分を設置し、ピロティ部分で28台分を確保する。	72台分の機械式駐車場は、新たに大臣認定を取得する必要があり、検討期間や設計期間、申請期間に余裕がない。	多目的広場の地下部分に機械式60台分を設置し、ピロティ部分で40台分を確保する。 ⇒60台分であれば、標準仕様の50台分のうちハイルーフ車両用を一般車両用に変更することにより整備が可能。
大型バス駐車スペース	建物南側に設ける。	小学校敷地中央部から帯屋町筋に通じる南北の遊歩道を整備するため、当該民有地と建物南側の土地の一部との交換を予定しており、建物南側に駐車スペースが確保できない。	建物東側に駐車スペースを設けることで調整中。 ⇒大型バスの進入・退出の動線が、道路交通法や駐車場法をクリアできるように調整中。
エスカレーター	施設利用者用のエレベーター2基とエスカレーター10基(1～5F及び建物北側部分の2F出入口(1～2F))を設置する。	エスカレーターは輸送能力に優れている一方、コストの課題等があり、総合的に判断。 建物北側の外付部分は、階段の設置で対応。	エレベーター2基とエスカレーター4基(1～3Fまで)を設置する。 ⇒4Fはホールや集会室、5Fはこども科学館(仮称)の利用がメインであり、エレベーターでの移動が主となると考えられる。
駐輪場(自転車用)	ピロティの南側部分に300台分を設置する。	建物の北側部分に2F出入口を設けるため、利便性を考慮してピロティの北側部分にも設置する。	ピロティの北側部分と南側部分に計300台分(北側75台、南側225台)を設置する。

6 今後のスケジュール



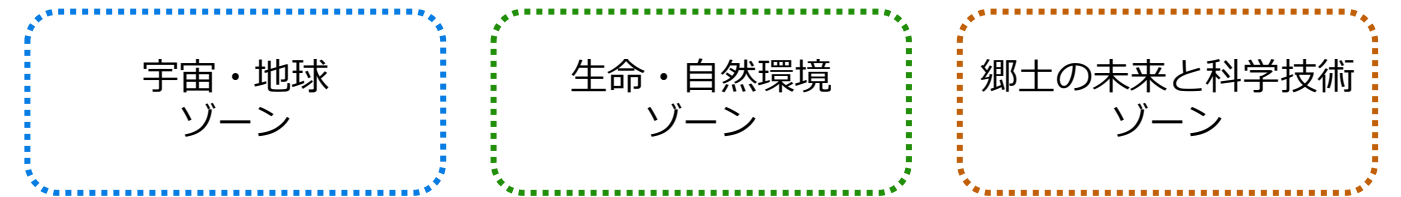
1 こども科学館（仮称）のコンセプト

「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」を基本コンセプトとする。

次代を担う創造性豊かな人材を育成し、科学的な見方や考え方を養い、知的創造活動の場を提供する。（基本計画より）

<常設展示のテーマ構成（基本計画）>

- ① エンターテインメント性を考慮した体験型展示を整備する。
- ② 県内の既存施設では対象としていない分野を中心とする。
- ③ 「生命・自然環境」「宇宙・地球」「郷土の未来と科学技術」の3ゾーンで構成する。（基本計画より）



2 テーマ展開と概念イメージ

（1）宇宙の不思議、地球の不思議、科学の不思議

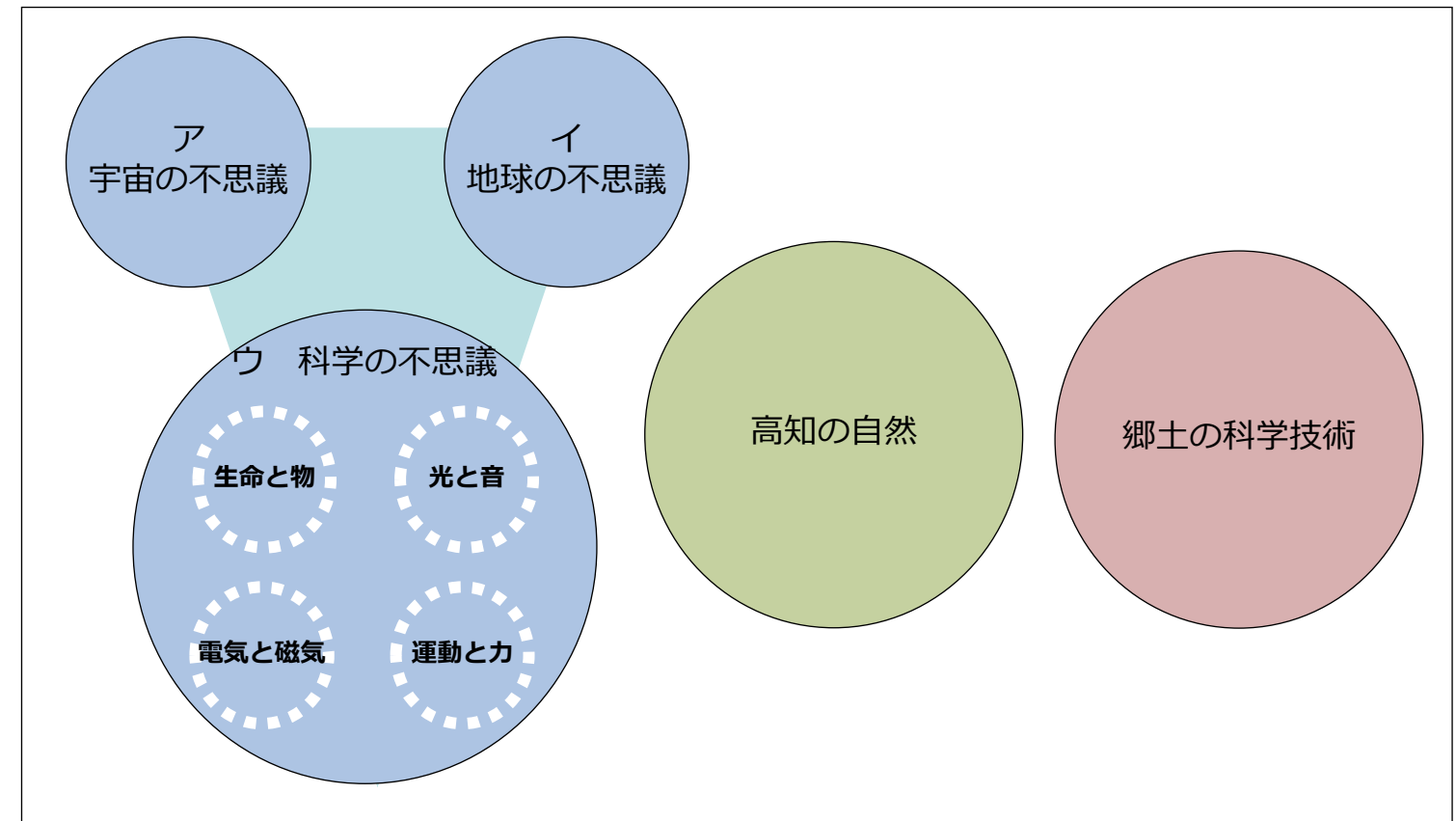
科学を楽しく体験し、理科好きの子どもたちを育成するため、3テーマにスポットを当てた構成とする。「ウ 科学の不思議」には中テーマを設定する。

（2）高知の自然

高知県内の他施設のガイダンス・ハブ機能（他施設の魅力を紹介し来館を促す情報発信機能）を持つ施設として、「高知の自然」を包括的なテーマとして展開する。

（3）郷土の科学技術

郷土で生まれた科学技術、郷土の科学者・技術者で構成する。



3 ゾーニングとテーマ配置

(1) テーマ配置の考え方

「宇宙」→「地球」→「高知の自然」という流れ（軸）を形づくる。

(2) 2つの機能空間を配置する

「サイエンスショー」および館内部で開発した展示物を体験できる「モノづくりガーデン」を配置する。

(3) 諸室の配置

ア 常設展示室を包み込む空間づくり

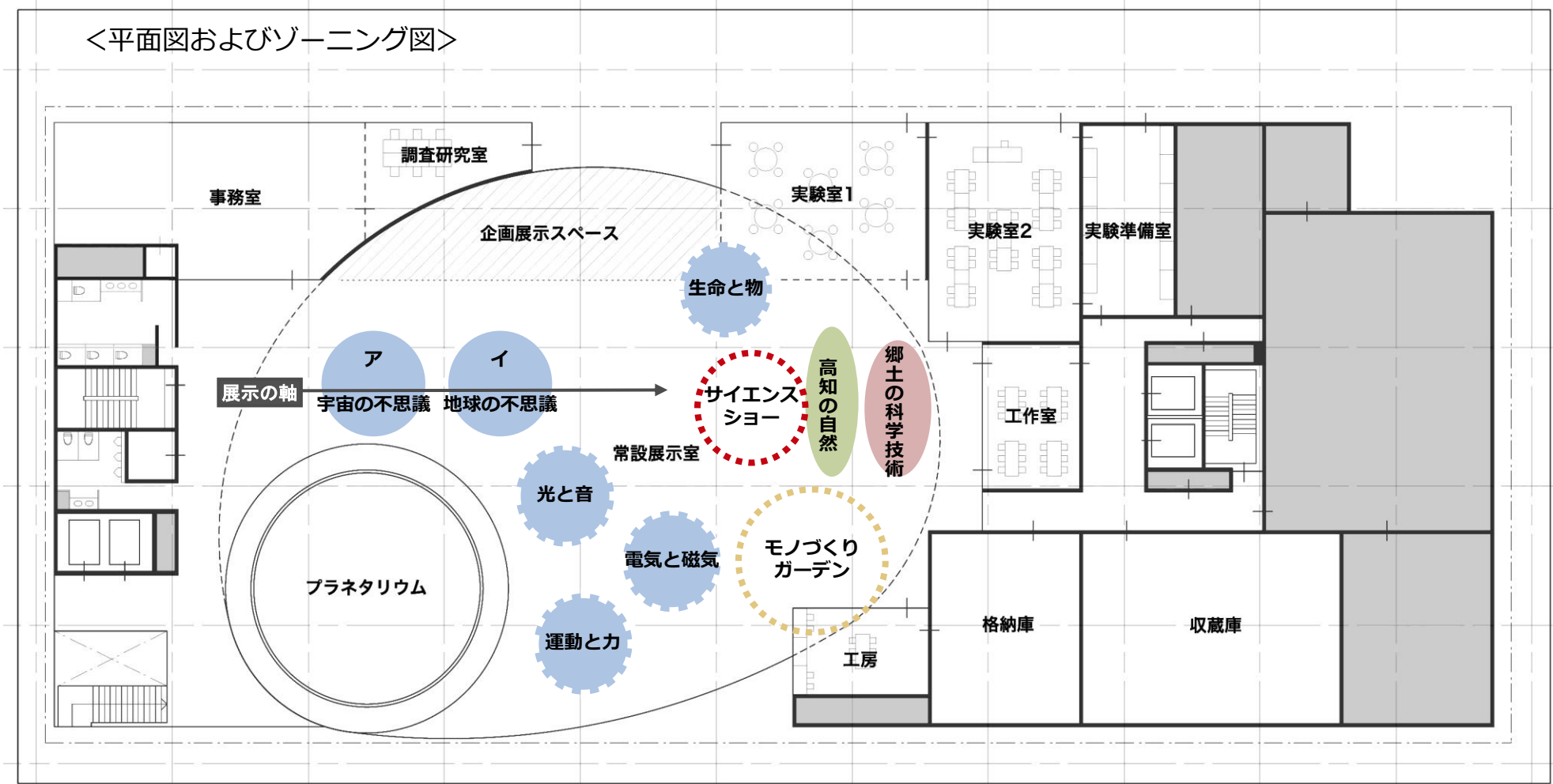
- ・ 常設展示室へ入った時の広がり感を創出（限られた空間をより広く感じとれるデザイン）
- ・ 諸室と常設展示の室間の視認性を向上（実験や体験の様子を相互に見られる空間）など

イ 諸室の機能性と連携に配慮した配置

- ・ 搬出入用EVと収蔵庫等との搬出入
- ・ 実験準備室と実験室との搬出入

ウ 屋外スペースの活用

- ・ 屋外スペースを活用して実験や観察を行う



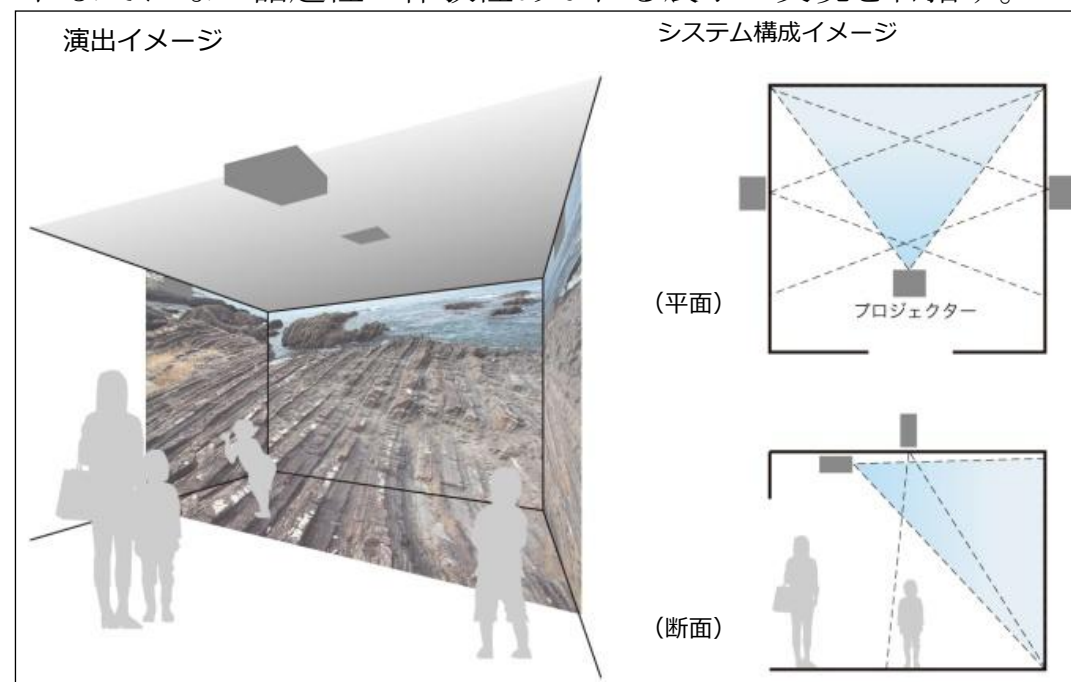
4 展示物の整備に向けて

- ・ 子どもたちの科学への興味・関心を高め、意欲を育む体験型展示の整備を行う。
- ・ 規模に応じた企画展の柔軟な開催、展示内容の更新が容易な可動性を考慮した展示を目指す。

展示展開例：「アドベンチャー・キューブ（仮称）」

複数のプロジェクターを活用して、前面と左右の壁面および床面に映像を投影し、まるでその世界に入り込んだかのような感覚が得られる空間を整備。

→これまでにない話題性・体験性あふれる展示の実現を目指す。



<コンテンツ展開（イメージ）>

①海底そして地底世界へ

地球深部探査船「ちきゅう」から海底、深海、そして南海トラフへと潜り込んでいく。深海の様子や深海生物の紹介を交えながら、プレートテクトニクスや地震発生メカニズム、擬似的な津波映像を臨場感豊かに紹介。

②高知ネイチャー・ワールド

高知のさまざまな自然の中に飛び込んでいく映像コンテンツ。室戸ジオパークのダイナミックな映像、生物の視点でとらえた高知の素晴らしい自然の姿を楽しく紹介。

